

まもなく大豆の収穫時期です。大きな雑草を抜き取り、ほ場ごとに成熟状況を確認し、適期内の収穫に努めましょう。

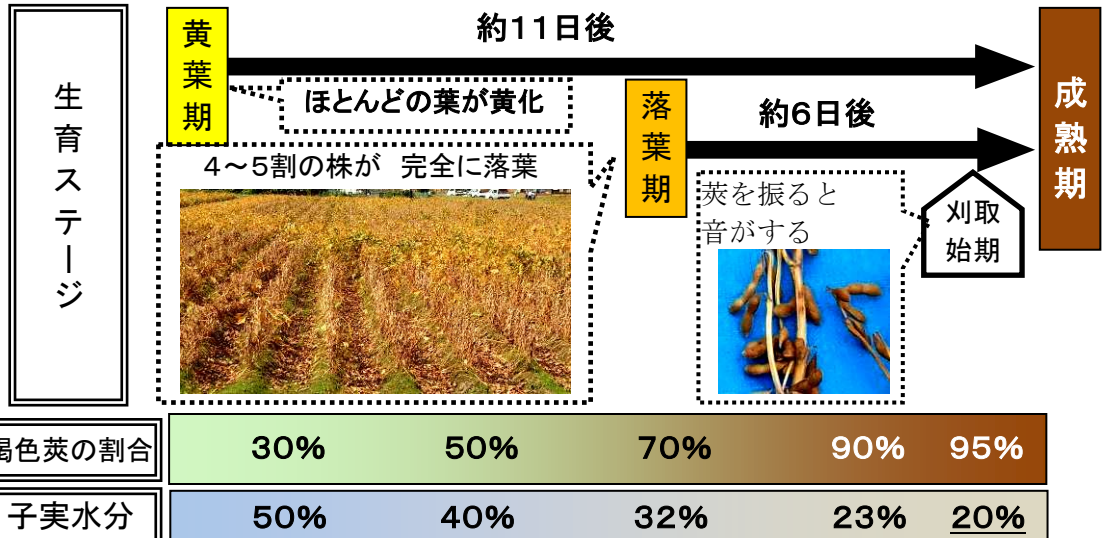
えんれいのそらの刈取

- ・下図を参考にはほ場ごとの**葉の黄化**や**落葉状況**を確認して、成熟期の目安をつけ、作業計画を立てましょう。
- ・莢の熟色を確認し、**90%以上の莢が褐色になった頃**から刈り始めましょう。刈り遅れると、しわ粒や腐敗粒の発生要因になります。茎の色みが若干残っていても、莢の色を優先させて収穫してください。

刈取始期の目安（えんれいのそら）

刈取始期
10月12日頃～

- ほ場によって登熟状況が異なりますので、ほ場ごとに生育ステージを確認して刈取を判断しましょう。



収穫作業

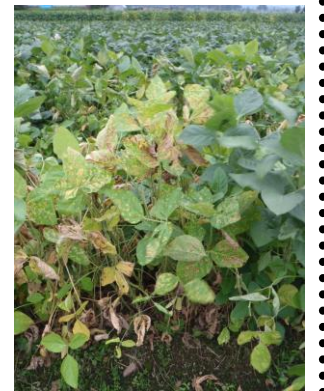
- ・**イヌホオズキ**等の**大きな雑草**や**青立ち株**は汚損粒発生の原因となります。また、**帰化アサガオ類**は大豆に絡みつくと、大豆を倒伏させ、収穫作業が不可能となる場合もあります。これらの雑草は**確実に抜き取りましょう**。
- ・収穫時に土をかき込まないように刈取り高さは地際から10cm程度に調整しましょう。
- ・収穫時刻は午前10時～午後4時頃を目安とし、莢が乾いていることを確認してから行いましょう。作業速度は0.4～0.8m/秒(1.4～2.8km/h)程度とし、大豆の生育量が大きい場合は、速度を落とすなど、コンバインのつまりを防ぎましょう。



●**帰化アサガオ類**のほ場への侵入が見られたら、種をつける前にしっかりと抜き取りましょう。

乾燥・調製

- ・急激な乾燥は、しわ粒等の発生原因となります。乾燥機の送風温度を「気温+5℃以内」とし、子実水分14%程度に仕上げましょう。
- ・調製は適正な流量を守り、被害粒の除去に努めましょう。



●**黒根腐病**が多発したほ場は、土づくりを強化しましょう。

次年度対策

①土づくり

- ・地力の低下は、黒根腐病の発生を助長し、収量低迷やしわ粒の発生などの大きな要因となります。発酵鶏ふん等の堆肥の施用や緑肥作物(ヘアリーベッチ等)の作付け・すき込みにより、収量や品質の向上を図りましょう。

②排水対策

- ・次年度の作付予定地には、年内に額縁排水溝を設置しましょう。
- ・心土破碎及び弾丸暗渠の実施により、積極的に排水性を改善しましょう。

寒江大豆乾燥調製施設の荷受けは、10月12日(月)から行います。

～秋の農作業安全運動実施中(10月20日まで)～